

令和7年度 第2回 学校評議員会

日時：令和7年11月27日（木） 9時50分～11時10分

場所：本校多目的教室

出席者：学校評議員7名 学校職員11名

1. 開会

2. 学校長挨拶

- ・SSH指定を23年間継続しているが、令和8年度末で予算を伴う事業が終了する。その後は予算がつかない「認定枠」で指定を継続していく予定。それに伴い、事業の形が大きく変わる可能性がある。カリキュラムの変更や予算の確保についても検討していく必要がある。
- ・本校の志願状況は、附属中学校、高校とも多くの小学生、中学生が志願をしてくれている。今後、高校再編や少子化による募集定員の減少が本校にも影響してくる。そのような事態に向けた学校づくりも必要である。
- ・生徒、保護者による学校アンケートの結果、生徒の充実感、探究学習に対して肯定的な評価が高かった。班活動や生徒会活動など生徒の自主的な活動についても肯定的であった。一方で、班活動で人権に配慮した指導を望む声があった。職員研修を行い、すべての生徒が安心安全で充実した生活が送れるように学校全体で取り組んでいる。

3. 学校からの説明

(1) 附属中学校の主な取り組み

- ・全国学力状況調査の結果から、多くの生徒について基礎学力の定着がみられる。ICTの活用についても肯定的な評価が高い。
- ・全国平均と比較して低い分野では、自己肯定感を高めるような取り組みや、クラスの中で助け合いの意識を育てる取組が課題である。
- ・不登校傾向の生徒が登校日数を増やしてきている。担任も粘り強く指導している。
- ・家庭学習の取組が生徒により差がある。学校として家庭学習の位置づけを見直し、家庭と協働体制を築いていくことが課題である。
- ・学年行事や探究学習では地域でも活躍している。
- ・志願者数が減少の傾向にある。小学生に本校の魅力をどう伝えていくか今後の課題である。

(2) キャリア教育について

- ・共通テストには98%の生徒が出願している。90%以上の生徒が6教科受験で出願している。文系・理系ともに教科を問わず、幅広く高校に必要な基礎学力を身に付けて次のステップに繋げるという本校のキャリア教育の在り方を多くの生徒に理解してもらっている。
- ・学年、各教科で共通テスト本番に向けて粘り強く指導している。
- ・学校推薦型、総合型選抜の出願状況は例年通りである。

(3) SSHについて

- ・SSHの予算は、主に外部講師の派遣や生徒の校外学習で使用している。
- ・現在、先導的改革型Ⅱ期で活動中であり、今期の昨年も実施した事業として、11月1日（土）に信大工学部を会場に「第2回 NSC課題研究研修会」を実施した。県内外より9校25グループが集まり、ここまでの研究成果についてポスター発表を行った。生徒の研修だけでなく、参加した教員向けの研修会を同時に展開して、課題研究の指導について研鑽を深めた。
- ・SSH特設科目「データサイエンス」の一環で、高校1学年全員で統計グラフコンクールに応募をした。最優秀賞を受賞し、全国コンクールでも入選を果たした。中学生部門でも手書きの部、PCの部それぞれで附属中の生徒が最優秀賞を受賞した。
- ・昨年度より実施したSSH学校設定科目「STEAM探究」は、今年度も多くの講座が開催され、多くの生徒が自主的に受講している。モチベーションの高い講座が展開されている。

- ・同じく昨年度より実施をしたSSH学校設定科目「信大STEAM連携」では、信州大学の高校生向け「先取り履修」プログラムの受講を本校の単位認定としている。本年度は8名の生徒が受講。
- ・今年度の新たな事業として、「情報」の発展科目「SS探究フロンティア」を開講した。7月には信大工学部教授を外部講師として招き、「データサイエンスの活用」というテーマで特別授業を実施した。
- ・英語力と国際力の向上に向けて、今年度新たな事業として、高校3年生が2年次に行った課題研究・課題探究を英語化し、県内高校ALTの前でポスター発表「Science Fair」行ったり、海外高校とオンラインでつなぎプレゼンを行ったりする英語発表会を開催した。
- ・11月末より、オーストラリアでの海外研修を実施する。10名の生徒が参加。シドニー大学での研修やウェノナ高校との交流など、本校独自の研修プログラムを実施している。

(4) 学校評価について

○中学校より

- ・生徒、保護者ともに概ね8～9割で肯定的な評価を得ている。特に授業、生活への満足度は高い。
- ・家庭学習の項目、学びの振り返りの項目で肯定的な割合が7割程度にとどまり、3割の生徒がうまく活用できていない。家庭との連携を深め、学びが深まるように改善していく。
- ・班活動については、地域移行の現状も踏まえながら、あり方について検討していく。

○高校より

- ・生徒、保護者ともに、屋代高校の生活全般を肯定的に評価している。
- ・班活動や生徒会、清掃への取組等の生徒自身の努力が見られる項目は高い傾向にある。
- ・保護者の「子どもを屋代高校に入学させて良かった」という項目ではとりわけ高い評価を得た。
- ・職員会で記述部分も含めてデータを共有し、改善すべき点は改善していく。
- ・今年度は鳩の糞害への要望が多い。事務室を中心に対応している。

4. 質疑及びご提言

【ご意見】

- ・アンケートの学習指導の方針について、生徒と保護者で意識のズレがある。保護者と学校の情報共有が大事。幅広い学力層への対応や、人格形成のための教育など学校の取組を保護者に理解してもらう必要がある。模試の回数についての意見に対しても、生徒、保護者に模試を実施する意義や模試の効果的な活用について説明し、納得してもらい取組んでいくことも必要。
 - 学習方針、特に家庭学習については、PTAからも意見をもらっている。中学段階ではある程度学校のイニシアティブと家庭との協力も必要だと認識している。
 - 本校の方針や取組について、折々の場面で保護者に積極的に発信していきたい。
 - 模試については、班活動、生徒会など忙しい時期は負担が大きい。生徒の様子を見ながら回数や実施時期について検討していきたい。
- ・スマホ等の使用方法、AIによる弊害、本当に自分で理解できることが大事である。
- ・スマホ、タブレットの扱いについて、小学校の統計では30人中4人は平日5時間程度使用している、夜中の2時くらいまで使用している児童もいる。情報リテラシー教育、保護者の方への情報共有、自宅での使い方が大切。今後デジタルとは切り離せない社会になるので、うまく関わられるような対応が家庭学習へとつながるのではないか。
- ・保護者と生徒と学校の3者のコミュニケーションが上手くいっているか。学校側もスマホ等の使用について勉強した上で生徒とともにルールを作っていく必要がある。スマホについては生徒が最も使いこなしていて教員や保護者がよく分かっていない。そういう面を認めていくことも必要。
- ・授業中のタブレット使用も授業とは全く違うことをしている生徒もいる。タブレットは場所を問わずどこでも勉強できる良い面もあるが、ゲームなどで絶えず利用していると困る。親もICT機器について勉強していかななくてはいけない。学校からHPで情報発信していけると良い。
 - 新科目SS探究フロンティアではAIの情報活用についても説明している。

- 中学では家庭でのルールづくりをお願いしている。12月に情報リテラシーの講演会を予定。
- 中学では学校での使用端末を自宅に持ち帰り、家庭学習やオンライン授業でも利用している。生徒は上手に使うことで学習の幅を広げているが、中にはゲームや動画視聴に使用してしまう生徒もいる。
- 忙しい家庭がある中で、なかなか家庭内で十分なコミュニケーションが取れていないこともあるかもしれない。保護者への情報発信やコミュニケーションが良い環境を作っていく。
- ・SSHや探究活動に熱心に取り組んでいる様子が見えるが、SSHへの関心がやや低いのが意外である。
- ・探究学習では積極的に出ていける生徒とそうでない生徒もいるはず。生徒の自主性を尊重し、本人がやりたいと思うような指導ができるとうい。
- ・先日、屋代高校前駅イルミネーションの点灯式にも参加した。生徒が企画し、点灯時には多くの生徒が喜んでた。地域にとっても良い取り組みだった。
- ・同窓会は年齢層が高くなってきている。同窓会で話をしていると屋代高校は優秀だが、都会に出ていったきり帰ってこない生徒も多いと言われる。地元への還元ができるような地域活動を今まで以上にやっていただきたい。
- SSHがほぼすべての教育課程に関わっており、23年継続の実績から学校活動における様々な取組がSSHと一体化して進んでいるため、生徒は改めてSSHを意識する機会がないのかもしれない。
- 高校3年生の面接練習時、高校時代に力を入れたこととして課題研究を述べる生徒が多いが、自分がやってきたことの意義や課題研究の有用性を自覚していない生徒もいる。全国でも優れた探究活動をしているので、やってきたことの意味を生徒にフィードバックすることも必要。
- 探究活動に前向きではない生徒については、学習や班活動が日々忙しい中で、探究活動の「やらされ感」がデータとして出てきているように感じる。
- 附属中で実施している地域探究を高校進学後に発展させ、地域の良さをPRする探究活動をしている生徒もいる。地域に根差した探究活動も大事にしていきたい。
- ・附属中の全国学力調査の結果で、「将来の夢や目標を持っている」割合が低いのが意外だった。また、「人が困っているときは、進んで助ける」「学級活動での話し合い」の項目が低いのが気になる。
- 夢や希望をもって附属中に入ってきた生徒が、入学後に学習レベルの高さから夢や目標を見失っている生徒もいると思う。自己肯定感を高める指導を心がけたい。
- クラスでの話し合いの場面やみんなで協働しながら何かを成し遂げていくような機会を増やしていきたい。
- ・附属中に入学した卒業生と会って話すと、学校が楽しいと返ってきた。半年ぶりに会うと凛々しさが備わっていた。授業の様子を見ると、普段の授業から深く考えることを大事にしていると感じた。
- ・附属中の廊下に飾られている書写が素晴らしい、探究活動も興味関心から始まり発信までしっかり取り組んでいる様子が分かった。

5. 諸連絡

- ・学校評議員による評価についてお願い
- ・次回予定：2月下旬

6. 閉会